

ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

80

2014. 4. 30

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）などの兵庫県内の協同組合運動相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指してー協同が息づくまちづくりー」を『基本理念』として、協同組合の「共通行動目標」の実践に取り組んでいます。

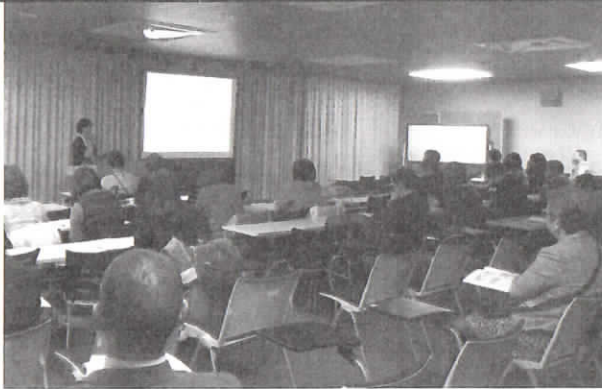
1. 協同組合活動スナップ 1
2. 兵庫JCC創立30周年記念
「協同組合の源流を探る旅」を開催 2~3
3. 2013年度 兵庫JCC協同組合研究・交流会を開催 ... 4
4. 兵庫JCC2014年度活動計画 5

Contents

5. 今協同組合ではー各協同組合からの報告ー
 - 生協/JA（農協） 6
 - JF（漁協）/JForest（森林組合） 7
6. 協同組合運動に生きる
協同組合の原点に立ち返る
生活協同組合コープこうべ 境 伸夫 8

● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

地方消費者グループ・フォーラムin奈良に参加



△ 生協

消費者問題に携わる消費者団体の連携を深めることを目的に開催。兵庫県立大学の学生が「学生の消費者力アップ～ひょうごの消費者市民社会を大学生が創造する取組み」と題して講演。消費者市民社会の実現に向けて大学生と社会人との連携を呼びかけました。

「ふるさとの食 につぼんの食」～全国フェスティバルへ出展～



△ JA（農協）

3月8日・9日に、NHK放送センター（東京都渋谷区）で開催された「ふるさとの食につぼんの食」全国フェスティバルに出展し、県内5JAから11の農産物・農産加工品の販売促進を行いました。

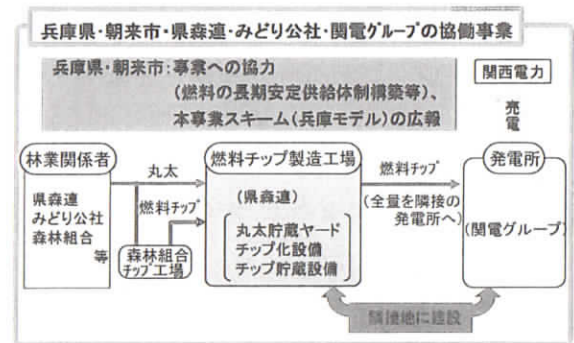
いかなご釘煮教室開催!



△ JF（漁協）

ひょうごの春告魚、いかなごが2月28日（金）に解禁となり、兵庫のおさかなファンクラブ「シートクラブ」を中心に、毎年ご好評を頂いているいかなご釘煮教室を連日開催しました。

木質バイオマス事業計画



△ JForest（森林組合）

計画の特徴 ○未利用木材を燃料とするバイオマス発電システム ○木材供給側と発電側が協働で計画 ○燃料は発電所に隣接するチップ工場が生産管理し、全量を発電所へ供給 ○未利用木材の長期安定需給を図るため、20年間、一定量を固定価格で取引

●編集発行
兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

●兵庫JCC事務局
兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078)391-8634
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(078)333-5896
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078)940-8013
兵庫県森林組合連合会 TEL(078)341-5082

兵庫 JCC 創立30周年記念 「協同組合の源流を探る旅」を開催

兵庫JCCは平成25年12月12～13日、「協同組合の源流を探る旅」を行った。協同組合の源流を訪問し、あらためて協同組合の精神を学ぶこと、次世代を担う職員の連携強化を目的に、22人が参加した。

初日は、大原幽学遺跡公園・記念館（千葉県旭市）、翌日は賀川豊彦記念館・松沢資料館（東京都世田谷区）、二宮尊徳記念館（神奈川県小田原市）を訪問し、協同組合の精神、設立の経過、社会的意義などについて学んだ。

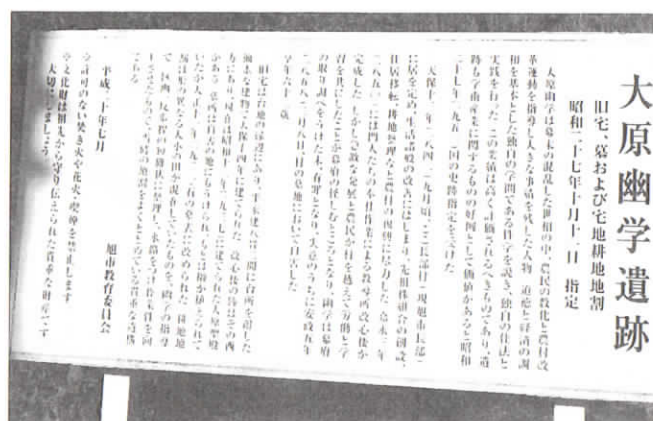
参加者からは、「協同組合の源流に触れ、協同組合の果たす役割を再認識できた」「同じ協同組合の仲間として、JCCの連携を深めたい」などの意見が聞かれた。

大原幽学遺跡公園・記念館

- ・ 18歳の時に生家を勘当され、武道で生計を立てながら近畿地方を放浪する。その後、34歳の時に社会運動の実践を決意する。42歳の時に、世界で最初の農業協同組合である「先祖株組合」を結成する。
- ・ 先祖株組合の結成、耕地整理、農業技術の指導等の農業改革のほか、独自の思想に基づいた生活改善や教育仕法なども実践し、村は領主から表彰を受けるほどの復興を遂げた。
- ・ 農民が村を越えて活動したこと、大規模な教導所（改心楼）を建設したことなどから、幕府の嫌疑を受け、62歳の時に自害した。

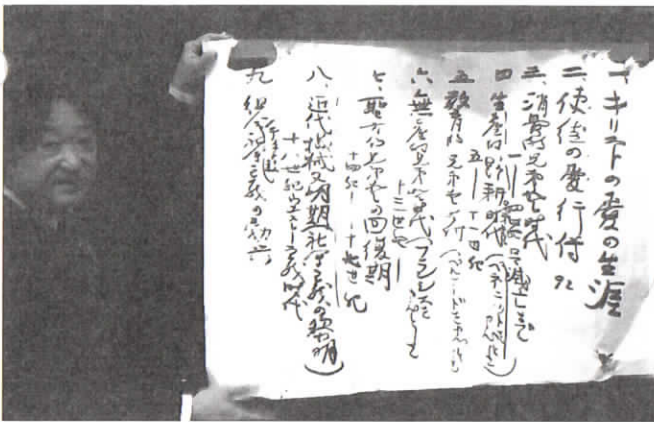


大原幽学遺跡公園・記念館にて



賀川豊彦記念館・松沢資料館

- ・ 賀川豊彦は、救貧から防貧の思想のもと、労働運動、農民運動、協同組合運動、普選運動、無産者政党樹立運動を実施した。
- ・ 賀川豊彦は、17歳の時にキリスト教社会主義者の石川三四郎の本を読み、ロッヂデール先駆者組合、ライフアイゼン農民信用組合を知る。また、マルクスの資本論等も学んだ。キリスト教と経済の両方について見識を深めた。
- ・ 社会主義経済と寡占資本主義経済を超えて、「第三の道」としての協同組合主義を唱えた。相愛互助の社会を目指して、「主観経済の原理」(人格経済・人間経済、道徳経済)等を執筆した。
- ・ 賀川豊彦は協同組合の7原則の中でも、特に教育に力を入れる必要を感じていた。また、協同組合は互助組織であり、地域や国際社会に貢献する必要があると唱えた。



賀川豊彦記念館・松沢資料館にて

二宮尊徳記念館

二宮尊徳の少年時代から、青年時代、桜町・小田原藩等の各地の村づくり等を学んだ。離散した一家を復興するために、昼は働き、その寸暇や夜を利用して学問に没頭した。その後、一族の復興を遂げたが、貧しい村々の復興に、弟子たちと尽力した。「自分もよし 人もよし」の報徳思想を指導した。



二宮尊徳記念館にて

2013年度 兵庫JCC協同組合研究・交流会を開催

兵庫県内の協同組合4団体で組織する兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)は3月5日、JA兵庫南かんき支店等(加古川市)で「2013年度 兵庫JCC協同組合研究・交流会」を開催した。

この研究・交流会は、より多くの生産者と消費者が直接意見交換をすることで、お互いを理解し合い、生産活動および消費行動に生かすことを目的としている。今年度はJAが主催となり、生協・JA・JF・森林組合の組合員、役職員21人が参加した。

JA兵庫中央会浜田専務理事の「TPP・規制改革会議等、農業・JAをめぐる情勢は厳しいが、JAは農業の振興に力を入れている。本日は、新鮮な野菜が並ぶ直売所や、県産県消のそば打ち体験、農業の現場視察を堪能して下さい」とのあいさつがあった。その後、志方東営農組合の黒田代表理事等を講師に招き、参加者はそば打ちの体験を行った。午後からは、株式会社ふぁーみんサポート東はりまの先端技術実証プロジェク

トチームでレタス・トマトの水耕栽培や、若手農家の玉村氏のイチゴ圃場、八幡CEの視察を行った。

参加者からは、「生産者とコミュニケーションをとることで、産地に対しての愛着が沸いた」「JCCの取り組みは県産県消の推進のために、とても意義深い」などの意見が聞かれ、研究・交流会を通じて生産者と消費者の相互理解を深めた。



レタスの水耕栽培について学ぶ参加者



そば打ち体験を行う参加者

兵庫JCC協同組合研究・交流会タイムスケジュール 開催日：2014年3月5日(水)9:00～16:00

時刻	場所
9時	JR加古川駅集合
9時20分～10時	ふぁーみんSHOPかんき支店
10時～10時20分	ソバ打ちオリエンテーション
10時20分～12時30分	県産県消ソバ打ち体験
12時30分～13時30分	昼食・片付け
13時30分～14時15分	移動
14時15分～14時35分	ふぁーみんサポート東はりま トマト、レタス水耕栽培視察
14時55分～15時10分	イチゴ圃場視察(玉村氏)
15時10分～15時30分	兵庫南農協八幡CE視察
16時	JR加古川駅到着・解散

兵庫JCC2014年度活動計画

企画骨子案

兵庫JCC創立30周年の取り組みを継続する。

企画名	内容	規模	実施日
各協同組合の 地域貢献活動を学ぶ	兵庫JCC4団体の次世代を担う職員が集い、各協同組合の事業と活動の実践報告とグループワーク、交流を通じて4団体若手職員の顔の見える関係づくり。	約30人	9月29日(月)
PHD運動への協力	兵庫JCCとして、(公財)PHD協会によるPHD運動への協力を行う。 ①各協同組合でPHD運動を紹介 ②PHD会員としての協力 会費年額5万円 ③研修生の受け入れ		
兵庫県版 「森は海の恋人」運動	現在、兵庫県漁連とコープこうべが取り組んでいる植樹活動に兵庫JCCの参加を呼びかける。	約50人	12月予定
第92回 国際協同組合デー・ 兵庫県記念大会	テーマ「協同の力で未来を拓く／協同組合がよりよい社会を築きます」 講演：「阪神・淡路大震災20年を迎えます。あの日、放送し続けて」 講師：ラジオパーソナリティー 谷 五郎 氏	約350人	7月4日(金)

PHDの団体概要

【設立の経緯】

1962年からネパールを中心に約20年間海外で医療活動に従事してきた岩村昇医師が、自らの活動経緯と反省をふまえ、「物」「金」中心の一時的援助を越えた草の根レベルの人材交流・育成を提唱して1981年6月に設立。

【組織の目的】

1. アジア・南太平洋地域からの研修生の招聘、研修後のフォローアップを通して、草の根の人々による自立した村づくりと生活向上に協力すること。
2. 日本の人々もアジア、南太平洋地域の人々との交流を通して学び、そこから毎日の生活を問い直し、平和(Peace)と健康(Health)を担う人材を育成(Human Development)し、「共に生きる」社会をめざすこと。

今 協同組合では —各協同組合からの報告—

生協から

「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催

1月11日(土)、兵庫県民会館において今回で9回目の開催となる「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催。兵庫県からは、健康福祉部 西谷美貴 課長補佐をはじめ4名の方々をお迎えし、会員生協の理事長・理事・監事など、のべ53名の参加をいただき、新年の決意を新たにする機会となりました。



賀詞交換会にて挨拶される
金澤和夫 兵庫県副知事

新春トップセミナーでは、兵庫県健康福祉部生活消費局 柳瀬厚子 局長よりご挨拶をいただき、その後、日本銀行 神戸支店 支店長 鉢村 健 氏を講師に迎え「最近の金融・経済情勢～混迷する現代経済と社会的厚生」と題して講演をいただきました。

賀川豊彦の紹介から始まり、「少子高齢化で人口構造が劇的に変化するため、これからの時代は新しい技術・考え方が出現しなければ経済を保つのは難しい。新しい考え方とは、たとえば『心の豊かさ』を社会全体で追及することであり、生活協同組合の果たすべき役割も大きいのではないかと結ばれました。会場ではメモを取りながら熱心に聞き入る参加者の姿が見られました。

その後、開催された賀詞交換会には、兵庫県の方々にもご参加いただき、ご来賓を代表して兵庫県副知事 金澤和夫 様から「地域のつながりによって支えられていくことの大切さを感じ、社会のあり方の根っこを強くしていく生協の発展に期待しています」とご挨拶いただき、引き続き乾杯のご発声で賑やかに会がスタートしました。日頃からお世話になっている行政の皆様と会員生協・団体の皆様、それぞれに賀詞交換を通じて交流を深めました。



講演される 日本銀行 神戸支店長 鉢村 健 氏

JA(農協)から

淡路島たまねぎ ドバイへ輸出

甘味があり柔らかくおいしい淡路島たまねぎ(15kg)を18日、世界トップクラスの富裕層で賑わうドバイ(アラブ首長国連邦)へ輸出した。JAあわじ島が淡路島たまねぎの甘さ、おいしさを知ってもらいドバイ富裕層への輸出拡大や他国への波及効果を目的とした試験輸出。ドバイ最高級ホテルのラッフルズホテル内の和食店など5店のシェフに試食される。



輸出された淡路島たまねぎ「極」

定植から収穫までの約7カ月という長い期間、寒暖をしのぎながら土中で栄養分を蓄え、さらに収穫後約1カ月、タマネギ小屋に吊るし、自然風でゆっくりと熟成させることで色つや・甘味が増すのが淡路島たまねぎの特徴。

今回輸出したタマネギは淡路島たまねぎの品種の中でも特に貯蔵性に優れ、糖度の高いもみじ3号。形や色つやなど品質の良い物を選び抜いた高級贈答用「淡路島たまねぎ『極』」だ。

JAの森紘一組合長は「自慢の淡路島たまねぎを海外の人たちにもぜひ味わってほしい」と話している。

JF (漁協) から



～連日満席! SEAT-CLUBのイカナゴくぎ煮教室～

兵庫の魚のおいしさ・楽しさを消費者の皆様にご紹介するため、さかな料理をメインに料理教室を開催している、JF兵庫漁連のひょうごのおさかなファンクラブ「SEAT-CLUB (シートクラブ)」では、3月3日(月)から3月14日(金)まで、イカナゴのくぎ煮教室を開催しました。

イカナゴのくぎ煮教室は毎年ご好評を頂いており、教室の予定発表と同時に予約の電話が鳴り続ける超人気教室で、今年も予約開始後すぐに全日程満席となりました。

また、県内の小中学校に対してもイカナゴのくぎ煮教室を開催しています。

こちらは、小中学校の家庭科の授業の一環として兵庫県イカナゴ謝恩実行委員会とSEAT-CLUBが希望された学校に講師を派遣して開催しています。

この他にも今年は新たな取り組みとして日本郵便 株式会社 近畿支社との共催によって、イカナゴのくぎ煮コンテストを開催しました。



瀬戸内の春の風物詩イカナゴのくぎ煮

当日は書類による一次審査で選ばれた16組の親子が、兵庫県水産会館に集まり、それぞれの家庭の自慢のくぎ煮を作りました。

SEAT-CLUBではこういったくぎ煮教室以外にも様々なイベント等で、兵庫の瀬戸内海沿岸の魚食文化であるイカナゴのくぎ煮の普及活動を展開しています。

このような活動を通して、沢山の方に兵庫の魚のおいしさ・楽しさを知っていただき、伝統的な魚食文化が若い世代にも継承されていくことを願うばかりです。



水揚げ直後の新鮮なイカナゴの新仔



大盛況のイカナゴのくぎ煮コンテスト

JForest (森林組合) から

未利用木材を活用した木質バイオマス事業の推進について

県森連は、県内の人工林の成熟化が進む中で「植栽、保育、伐採、利用の林業生産サイクル」が円滑に循環し、森林の多面的機能を持続的に発揮させる「資源循環型林業」の構築をめざす兵庫県の施策のもと日々業務を行っています。

このような中、昨年12月に朝来市生野町(生野工業団地)における木質バイオマス事業計画を協働で検討・推進するため、県森連、兵庫みどり公社、関西電力(株)、兵庫県、朝来市の関係5者で「木質バイオマス事業計画の推進に関する協定」を締結しました。

この協定は、地域の有用な資源でありながらこれまで利用されず放置されていた未利用木材を再生可能エネルギーとして積極的に活用することにより、林業再生と地域経済の活性化ならびに再生可能エネルギーの普及・拡大を図っていくとするものです。

この木質バイオマス事業は、県森連が県下森林組合等を取りまとめ、未利用木材の収集を行なうとともに、燃料用チップ製造工場を建設・運用し、発電所へ燃料チップを安定供給します。

また、関西電力グループ会社が、新たに発電所を建設し、チップを燃料としたバイオマス発電を行い、再生可能エネルギー固定価格買取制度に基づく売電事業を行うものです。

今後は、平成27年度末の運転開始目標に向け、関係5者で詳細な検討・協議を進めていくとともに、この一連の工程を官民が協働で推進する「兵庫モデル」として構築していきます。

協同組合運動 に生きる

協同組合の原点に立ち返る

生活協同組合コープこうべ
組合員活動部 担当係長 境 伸夫



私が生協に入所したのはコープこうべの前身の灘神戸生協の時代で、トラックで組合員に商品をお届けする部署に着任しました。当時は協同購入グループが中心で、お宅の駐車スペース等をお借りして5～6人の組合員が集まり、わいわい言いながら商品を分け合っていました。その分け合いの象徴がケースに入った5kg入りの卵でした（当時は原卵：ゲンランと呼んでいました）。この卵を組合員が自宅から持ってきたボールに数を数えながらせっせと分け合い、更には代表して購入された方に、受け取った個数分の金額を現金で支払うなど、組合員同士でやり取りを行っていました。また、グループに高齢者や妊婦がいるとテキパキと動ける方がそのお手伝いをするなど、組合員同士が助け合っている姿が日常だったように記憶していますし、これこそが相互扶助の精神そのものだと思っています。

現在の社会に目を移してみると、少子高齢化が急速に進んでいることや単身者の増加、地域の結び付きや人々の中のきずなが弱くなってきており、20数年前に行われていた組合員同士の助け合いによってできていたレベルを大きく超えているように思われます。

コープこうべでは、このような地域社会の変化に対応しようと行政と連携した取り組みをすすめています。協同購入を含む宅配では、担当者が毎週同じ地域を訪問していることから、行政が行う地域の高齢者の見守り活動への協力をしています。これは担当者が訪問した際に「何度訪問しても応答がない」「配達

時に新聞がたまっている」など、いつもと違う組合員の様子に気付いた場合に、上司を通じて地域包括支援センターに通報して、地域の見守りにつなげています。兵庫県が支援する「兵庫県民生委員見守りネットワーク応援協定」を、兵庫県、兵庫県社会福祉協議会、兵庫県民生委員児童委員会連合会と4者で締結しています。この行政や社会福祉協議会と連携した見守りの取り組みは17市2町（2014年2月末）に広がっており、担当者が地域組合員の生活にいかにかアンテナを広げられるかが望まれています。また、自宅に夕食弁当をお届けする夕食サポート「まいくる」は、利用者に対して高齢消費者の被害防止に向けた啓発活動を行う活動も行っています。

このように、職員を介して地域の組合員のお役立ちをしていくには将来的には限界があると認識しており、このような時代だからこそ協同組合の原点に立ち返って、改めてよりどころとなる組合員と共に考え、すすめていく時期にきていると思います。地域の課題や困りごとに組合員が応えるべく、生活を総合的に支援する場づくりを立ち上げようとしているところです。

地域をよくするために協同組合の職員の力だけでなく、協同組合の組合員が主役になって、組合員の要望に組合員が応える持続可能な社会に向けて取り組んでいくことが望まれていると考えます。